

ホロコピア'88 北摂丹波の祭典・たんば田園交響ホール開館10周年記念

文化庁芸術創造特別支援事業

大阪フィルハーモニー交響楽団



大阪フィルハーモニー交響楽団



指揮／小林研一郎



ヴァイオリン／加藤知子

プログラム

F.P.シューベルト
交響曲第8番 口短調 《未完成》

J.L.F.メンデルスゾーン
ヴァイオリン協奏曲 短調
ヴァイオリン独奏 加藤知子

L.V.ベートーベン
交響曲第5番 ハ短調 《運命》

4月16日(木) 午後6時30分開演

たんば田園交響ホール

一般／5,000円
大学生以下／1,000円 (全席指定)

※小学生未満の入場はできません。

●主催 篠山町・社団法人大阪フィルハーモニー協会 ●協賛 財団法人みどり銀行文化振興財団

ご予約・お問い合わせは ☎0795(52)3600 たんば田園交響ホール

友の会予約受付開始日：2月20日

一般売日：2月24日

篠山町内

小山書店 ☎52-0019
森本書房 ☎52-0125
木下楽器 ☎52-0321
サワヤマ楽器 ☎52-2019
みずほトラベル ☎52-5677

丹南町内

JA丹波旅行センター ☎94-3090
リプロ ☎94-0188
NEWS丹南総合サービスセンター ☎94-3700

西紀町内

西紀町中央公民館 ☎93-0334
今田町内
今田町中央公民館 ☎97-2255
三田市内
三田サティ3Fサービスコーナー ☎64-2121

氷上郡内

柏原観光案内所 ☎73-0303
丹波の森公苑 ☎72-2128
春日町文化ホール ☎74-1050
ライフピアいちじま ☎85-3030

プレイ
ガイド

交響曲第8番 口短調 《未完成》—— F. P. シューベルト



F. P. シューベルトが子供たちに算数を教えていて2/4を書いたとき、分数の2/4が音楽の2/4拍子にイメージが変わり、シューベルトは生徒が不思議そうな顔をして見ているのも忘れてチョークで五線を書き、その上に皆さんよくご存知の「野ばら」のメロディーを書いてしまいました。これはわたしが中学生のころ、「未成交響曲」という映画の中で見た一場面です。これは実際あったことではなく映画のなかでのつくり話にすぎませんが、彼の天才性と、無限に美しいメロディーを生み出す才能を象徴的に語っていると思います。「未成交響曲」は珍しく二つの楽章で終わっておりますが、面白いことに三楽章の冒頭9小節のメモを残しているのです。しかも、次の第9番交響曲は完結して書いておりますので、「この交響曲」が二つの楽章で十分だと判断したのかどうか、興味をそそるところです。とにかくこれを人々は「未成交響曲」と呼ぶに至ったのです。

是非みなさんの耳でお聞きになって、ご判断いただきたいところです。

ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 —— J. F. L. メンデルスゾーン

普通、協奏曲と言えば曲の大小にかかわらず、呈示部、つまり前奏のような部分がしばらくあって、雰囲気をつくっておいて独奏者がやおら弾きはじめるのが通例ですが、メンデルスゾーンのヴァイオリン協奏曲は、たった1小節半の弦楽器のアルペジオが演奏されるだけで、あの美しい無言歌のようなソプラノ風の情熱的な美しいメロディーが流れはじめます。わたしたちは虚をつかれたように快速なテンポで進んでいきます。次から次へとくり出されるメロディーにひきこまれてしまいます。カデンツァは協奏曲にはつきものですが、普通はオーケストラは休んで独奏者が即興的に自分の技巧を弾いて見せるのが通常ですが、メンデルスゾーンはカデンツァの部分を再現部よりもう少し前の展開部の部分にしています。そして、即興でなく、独奏者のカデンツァのすべてをメンデルスゾーンが書き込んでいるのが大きな特長です。多分、メンデルスゾーンが指揮をしていたゲバントハウス管弦楽団のコンサートマスターであったダビッドに捧げるためのものでしたから、ダビッドから色々と聞きながら書いたように思います。第二楽章はABAという三部形式の抒情詩といってもいいロマンティックな感じを満喫できるでしょう。第三楽章へは静かなブリッジのようなメロディーから休むことなく、トランペットのファンファーレを通じてソナタ形式（呈示部、第一主題、第二主題、展開部、再現部、終結部）がはじまります。オーケストラの色々な楽器と対話しながら明るく終結部に向かってスマートに進んでいきます。

交響曲第5番 ハ短調 《運命》—— L. V. ベートーベン

この曲は今更説明しなくてもどなたでもご存じでしょう。ただ、この交響曲を「運命」と呼んでいるのは日本だけであることを一つ覚えておいていただきたいと思います。これはベートーベンの弟子であったシントラーにベートーベンが「運命はこのように戸を叩く」と言ったというエピソードから運命と命名したといわれています。日本人もなかなかすごいと思います。ご存じのタタターン“”という動機からこの曲は始まっていますが、是非聞いていただきたいのは1、2、3、4の全楽章を突き抜けるように、“”とどの楽章にも運命の動機が時には近くに、時に遠くに迫るように聞こえて来るところを聞いていただきたいと思います。四楽章は勝利に満ちた楽章ですが、この楽章の最後になってもまだ、何かを追求しつづけ、まさに名曲であることをわたしたちにうなずかせます。

たんば田園交響ホール 参与 前川澄夫

プロフィール

□指揮／小林研一郎

東京芸術大学作曲科及び指揮科卒業、1974年第一回プダベスト国際指揮者コンクール第1位、国際指揮者コンクール審査員、ハンガリー政府よりソリスト記念勲章、ハンガリー文化勲章、1994年には“星付十字勲章”という民間人最高の勲章を授与された。著書にエッセイ集「指揮者のひとりごと」（騎虎書房）があり、将棋はプロ級の腕前ということである。

□ヴァイオリン／加藤知子

4歳よりヴァイオリンを始め、三瓶詠子、久保田良作、江藤俊哉の各氏に師事、第47回音楽コンクール第1位、レウディア賞を受賞、1982年第7回チャイコフスキー国際コンクール第2位受賞、国内外ともに大活躍、質内容ともに高く評価されている。CDも「チャイコフスキーのヴァイオリン協奏曲」をはじめ、「メンデルスゾーン・フォーレの室内楽」のほか「イザイの無伴奏ヴァイオリンソナタ」がリリースされている。